

製品名: Bcl-6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07507**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	78kDa

抗原情報

遺伝子名	BCL6 BCL6; BCL5; LAZ3; ZBTB27; ZNF51; B-cell lymphoma 6 protein; BCL-6; B-cell lymphoma 5 protein; BCL-5; Protein LAZ-3; Zinc finger and BTB domain-containing protein 27; Zinc finger protein 51
別名	
遺伝子 ID	604.0
SwissProt ID	P41182
免疫原	抗血清はヒト BCL6 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 271-320

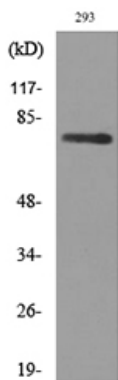
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質はジンクフィンガー転写因子であり、N末端にPOZドメインを有する。このタンパク質は配列特異的な転写抑制因子として作用し、B細胞のSTAT依存性IL-4応答の転写を調節することが示されている。このタンパク質は、転写コリプレッサーとして機能する様々なPOZ含有タンパク質と相互作用することができる。この遺伝子は、びまん性大細胞リンパ腫(DLCL)において頻りに転座および高頻度変異を起こしていることが分かっており、DLCLの病態に関与している可能性がある。この遺伝子には、異なるタンパク質アイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq提供、2015年8月]疾患: BCL6に関連する染色体異常は、ある種のB細胞白血病の原因となる可能性がある。POU2AF1/OBF1との転座t(3;11)(q27;q23)。疾患: BCL6に関連する染色体異常は、リンパ腫の原因となる可能性がある。ARHH/TTFとの転座t(3;4)(q27;p11)。疾患: BCL6に関連する染色体異常は、B細胞性非ホジキンリンパ腫の原因となる可能性がある。転座t(3;14)(q27;q32);免疫グロブリン遺伝子領域との転座t(3;22)(q27;q11)。機能: 胚中心形成および抗体親和性成熟に必要な転写抑制因子。リンパ腫形成において重要な役割を果たしていると考えられる。誘導: 樹状細胞の成熟過程において、LPS、CD40L、ゼイモサンなどの選択的刺激によってダウンレギュレーションされる。PTM: 抗原受容体活性化に反応してMAPK1によってリン酸化される。リン酸化はユビキチン/プロテアソーム経路による分解を誘導する。類似性: 1つのBTB(POZ)ドメインを含む。類似性: 6つのC2H2型ジンクフィンガーを含む。サブユニット: ZBTB7およびBCL6と相互作用する(類似性による)。HDAC9の触媒ドメインと相互作用する。組織特異性: 胚中心T細胞およびB細胞、ならびに初代培養未熟樹状細胞で発現する。、

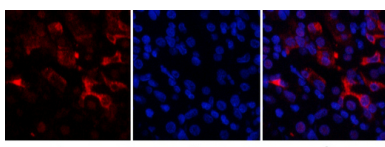
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

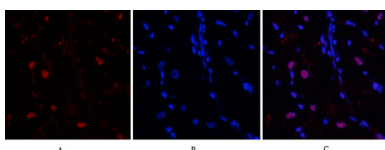
画像データ



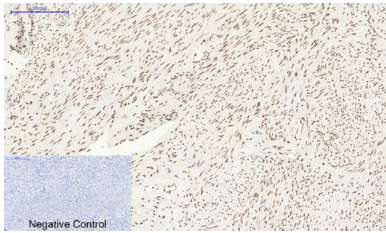
BCL6抗体を使用した293細胞溶解液のウエスタンブロット分析。



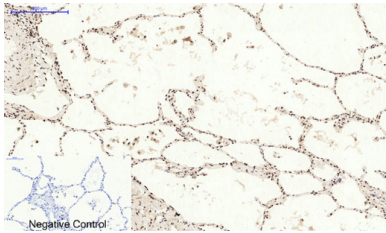
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, Bcl-6ポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bのマージ。



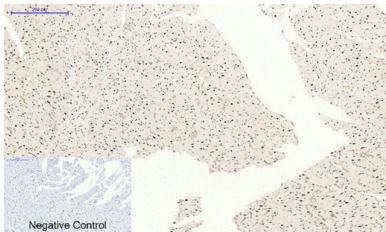
ラット心臓組織の免疫蛍光染色。1, Bcl-6ポリクローナル抗体(赤)を1:200に希釈(4°C、一晚)。2, Cy3標識二次抗体を1:300に希釈(室温、50分)。3, 図B: DAPI(青)10分。図A: ターゲット。図B: DAPI。図C: A+Bの合成。



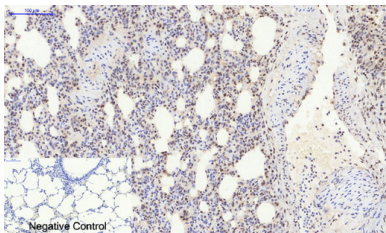
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. Bcl-6 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



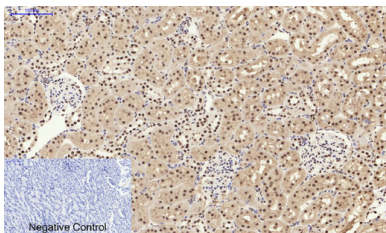
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. Bcl-6 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



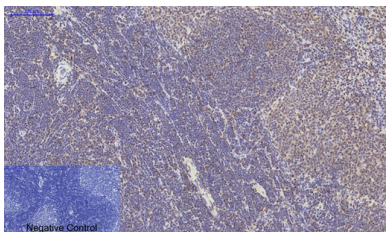
パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. Bcl-6 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. Bcl-6 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. Bcl-6 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学染色。1. Bcl-6 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。